

## 令和3年度第4回（第73回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和4年3月15日（火）16:00 ～ 16:45

場 所：Zoomによるウェブ会議

出席者（順不同・敬称略）

高木真人委員長、湯本公庸委員、原田克之委員、木下泰三委員、植山淑治委員、  
八坂保弘委員、安部田貞行委員、新宅英司委員、蔦森秀夫委員、橋本克巳委員、  
尾崎章幹事、  
オブザーバ：井上和久様（日本コンクリート工学会）

### 配布資料

- 資料 4-1 令和3年度第3回（第72回）CPDプログラム委員会議事録（案）
- 資料 4-2-1 第37回（2021年度第5回）CPD運営委員会議事録
- 資料 4-2-2 第38回（2021年度第6回）CPD運営委員会議事メモ
- 資料 4-2-2 追加 CPD推進ホーム内容 No13\_広報委員会 20220124
- 資料 4-3 2021年度第1回CPD協議会全体会議 議事録
- 資料 4-4-1 第1回CPD活動関係学協会連絡会議事録
- 資料 4-4-2 第1回CPD活動関係学協会連絡会資料（改）
- 資料 4-5 第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム

### 議事

#### 1. 前回議事録の確認

- 資料4-1により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。

#### 2. CPD協議会運営委員会（第37、38回）報告

- 資料4-2-1、4-2-2により、CPD協議会運営委員会の議事内容が報告された。
- 4-2-2追加資料について、運営委員会での議論の内容が紹介された。

#### 3. CPD協議会全体会議報告

- 資料4-3により、CPD協議会全体会議の議事内容が報告された。

#### 4. 日本技術士会／第1回CPD活動関係学協会連絡会報告

- 高木委員長から、今年度事業報告書にも参画が記載されている、日本技術士会CPD活動関係学協会連絡会の第1回会合が開催され、尾崎幹事に代理出席をお願いしたことが報告された。続いて尾崎幹事より、資料4-4により、題記連絡会の議事内容が報告された。
  - 2021年9月以降の技術士CPD実績管理登録数は、正会員605件、会員外30件、

合計 635 件であった。このうち、実施法人の CPD 証明書による申請は 87 件であった。

- 技術士 CPD 実績管理委員会への日本工学会からの委員については、CPD 協議会運営委員会で検討の結果、高木委員長にお願いすることとした。日本技術士会事務局に回答済である。

## 5. 世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの結果報告

- 資料 4-5 により、高木委員長から説明があった。

- 参加者合計 87 名（一般 63 名、登壇者 14 名、委員会関係者 10 名）であった。
- 登壇者のご発表の概要は以下の通り、

### ◇第一部 「技術者の役割・未来」～技術者のダイバシティー

大島まり先生からは、機械学会でのダイバシティーの取り組み（Ladies' Association of JSME、女性みらい賞など）の紹介の他、教育現場では男女の違いは無いが、大学受験で理系文系が分かれており職業選択にも尾を引いてしまうことが指摘された。

ベンチャー・ジェンチャン先生からは、ダイバシティーの成功例として、デザイン・人間工学・UX・制御工学・電子工学・AI・感性の専門家チームによるロボット開発が紹介された。塚原健一先生からは、アジア開発銀行等の海外機関では女性比率の目標値 40%の達成が目前であり、今後日本でも、組織的サポートと生活支援が必要であることが指摘された。水本伸子氏からは、IHI の経営理念は、人材こそが最大かつ唯一の財産であるとしており、価値創造プロセスとしてのダイバシティー&インクルージョンを挙げているので、今後一層、女性を活用していくことが紹介された。山本佳世子氏からは、自身の経験から、理系女子へのアドバイスとして、ネットワーキングで仲間を作り共感しつつキャリア強化のポイントを学ぶことや、もっと自信を持つことが述べられた。

### ◇第二部 「未来を拓く工学」～カーボンニュートラルへの挑戦～

有木和春氏からは、地熱発電は安定した電源であり、日本は地熱資源に恵まれており 50 年以上の運転実績がある一方、地下資源開発、事業化の難しさについて述べられた。江守正多氏からは、カーボンニュートラルの戦略の評価として、新たに ELSI の Ethical からの評価に取り組んでいることが紹介された。洲崎誠氏からは、CO2 貯留では、CO2 の回収、輸送、転換利用のすべてがつながる必要があり、バリューチェーンを接続していく取組が重要であるとの指摘があった。関正雄氏からは、カーボンニュートラルの達成には、社会経済システムの大変革が必要で、そのためにはマルチステークホルダーによる協働が必要であるとの指摘があった。矢部彰氏からは、カーボンニュートラル実現のためには、工学に関連する多くの技術が関り、また、CO2 排出削減コストを大幅に低減することが重要であるとの指摘があった。

- 登壇者からも、相互の意見交換は有意義であった、との感想を頂いている。
- 登壇者の了解が得られたプレゼン資料は、日本工学会の Web ページに掲載予定。

6. その他

- 高木委員長より、CPD ガイドライン改訂は次年度中のドラフト完成を予定しており、4回の委員会以外でも、メール等での情報共有を行うこともあるので、ご協力をお願いしたい旨、依頼があった。
- 次回については、別途日程調整を行う。

以上